

情勢報告

ブルースター現地検討会始まる



収穫が始まったばかりのブルースターを前に熱心に議論する。

10月2日にJA土佐あき花卉部芸西支部ブルースター部会（貞広伸一郎会長、8名）の現地検討会が22園芸年度になり始めて開催された。

現地では9月末から出荷が始まった。日陰地のごく一部で立ち枯れ症状が発生したが、振興センターがえき病対策実証圃を設置した圃場では病害もなく順調に生育していることを皆で確認した。圃場視察が進むにつれ、「従来の品種より濃い水色の系統が出た」など様々な意見、提案が出て、盛り上がった。

そして、場所を集出荷場の会議室に移し、出荷箱の大きさや在庫状況、販促イベントや鮮度保持剤の使用法等議題は豊富で、これからの作に対して決意表明にも似た熱い会議になった。

ユズ収穫目前！！ 東川支部研究会の開催



幼木の仕立て、この枝はこっちに引っ張らんといかんで！！

10月19日に東川支部の圃場巡回および研究会が61名の参加のもと行われた。

朝9時から参加農家の圃場を今年の着果状況や品質を見ながら意見を出し、反省点など話し合いながら回った。「全体的に、今年は色づきが早いねえ、どこみてもなっちゅうねえ」が合い言葉だった。

午後3時からの研究会では、販売の取り組みと樹勢負担軽減および回復に向けて早期収穫などの対策について振興センターから説明した。農家からは「今年は着色が例年より1週間以上早いので早く採らんといかんねえ」と11月20日からの出荷に向けて気合をいれていた。

小学生も農家に負けじと土着天敵捕獲！



雑草についている虫(天敵)をシートにたたき落としてから捕獲

10月14日に芸西小学校3年生（46名）が村内で土着天敵を集めた。地域の青年農業士（7名）が主体となって指導し、JA営農指導員と振興センター職員がその補助にあたった。

この授業は、5年間続いており、「地域ぐるみでハスモンヨトウ捕獲大作戦」の番外編として、今年初めて開催した。生徒は、虫を雑草から白いシートにたたき落とした後、クロヒョウタンカスミカメやデントウムシなどの土着天敵を見つけては、授業で作った吸虫管で集めていた。時期的に早いため、多くの天敵昆虫を集めることはできなかったが、青年農業士に虫の見分け方や、生息場所を教えてもらいながら、約1.5時間、わいわいがやがやと虫の捕獲を楽しんだ。

捕獲した虫を、うれしそうに持って帰る生徒、青年農業士に渡す生徒と様々だったが、好評であり、この授業は今後も続きそうである。

本格的なナス栽培にあわせ安芸市内で地区会を開催



活発な質疑が交わされた

安芸集出荷場管内の 5 ヶ所（北、安芸、川北、下山、伊尾木）の地域で 9 月 24 日から 30 日にかけて地区会を開催したところ延べ 76 名のナス栽培農家の出席がみられた。

振興センターがナスの 18 t どりに向けての栽培管理、天敵の情報、省エネ対策について、パワーポイントを活用した講習会と現地視察を実施した。

今年はどこの地域でも土着天敵の導入がみられ、「タバコカスミカメはスリッパスを食べないのでは？」や「天敵に影響が少ない農薬は？」など意見や質問が飛び交った。今後も教え学びあう場として地区会を開催していく。

室戸のナスでも現地検討会を開催



現地検討会の様子

室戸市でも本格的に普通ナスの出荷が始まり、吉良川地区(10 月 14 日、10 戸全員参加)と室戸地区(10 月 22 日、4 戸中 3 戸参加)で、現地検討会が開催された。

当農業振興センターは、当日の現地巡回時に全圃場にて簡易土壌分析を行ったうえで、18 t / 10 a どりに向けた栽培管理(灌水、追肥、摘葉等)の講習と、天敵の情報の説明を実施した。また、J A より農薬の安全使用・生産履歴の記帳、市況等の説明もあった。

農家(篤農家)からも、「今年は地が乾きやすいようだ」、「(土着を含め) 天敵は数を入れた方が良い」などといった話もあった。

今後も、J A と協力しながら、現地巡回指導を行っていき、ナスの生育ステージや栽培管理のポイントごとに現地検討会を開催していく。